

「税金がつないだ命」

静岡市立城内中学校

1年 松下 大河

「税金がまた高くなった。」「税金は何の為にあるのか。」など、人々の税金に対する不満をよく耳にする。「税金」というと何だかマイナスのイメージがあるように感じる。しかし、僕は知っている。「税金」に助けられる命があるということ。

今年、七歳になった僕の弟は未熟児で産まれた。体重は、わずか八百二十九グラム。両親は病院の医師から、「助からないかもしれない。心の準備が必要です。」と言われたそう。当時、僕は七歳だったが弟が死んでしまうかもと母が泣いていた姿が今でも強く記憶に残っている。そんな弟だが、四度に渡る、大きな手術を無事に乗り切り、今は元気に小学校に通っている。生命の危機になりながらも、生き抜いてくれた弟に感謝しているし、命を助けてくれた病院の先生方にも感謝している。そして、何より僕は、子どもの医療費助成制度にも感謝をしている。僕の住んでいる静岡市は、健康保険に加入している0歳から十八歳までは、病気やけがなどで入院・通院した場合に医療費の一部を助成してくれる制度がある。オムツ代や食事代などは、助成の対象にならないが、手術代、診療代、薬代などに適用される。僕も今、十二歳なので、この助成制度が適用され、病気やけがなどをした際、かかる医療費は、五百円までだ。弟が生まれた時も、この制度が適用され、六ヶ月間にもおよぶ、入院費と手術代は総額一千万円を超えていたが、数十万円で済むことができた。もしも、この制度がなかったら、弟は助かっていただろうか。両親は、とても一千万という金額は払うことはできなかったと思う。子ども医療費助成制度があったおかげで、弟は救われたと何度も言っている。そして、大切なのは、この助成制度は人々が納めた税金が財源だということだ。国民一人一人が、税金を納めることにより、日本の医療制度が支えられている。医療は、人間が生きるために必要なもので、なくてはならないものである。どんな人でも平等に受ける権利がある。もしも、税金で支えられている医療費助成制度のしくみがなければ、どうなってしまっただろうか。助かる命も、助からないという事態になるかもしれない。税金というとマイナスのイメージがついてまわるが、人の命を救うと考えると、そのイメージは変わってくる。僕は税金の大切さを一人でも多くの人々に知ってほしいと感じている。そして消費税以外の税金を払う年齢になった時には、胸を張って納めることが出来たらと思っている。